

番号	氏名	抱負
16	福西 康修	日本放射線技術学会の学会としてのレベル向上と診療放射線技師の学力および医療技術者としての質の向上、さらには医療技術の発展に、微少たりとも貢献できればと思い立候補いたします。
17	隅田 博臣	私は一期務めた理事の経験の礎に一層努力したいと考えており、今回の理事選出馬にあたり3つのKey Words「先見力・探求力・情報発信力」を示します。近年、国や企業から「課題解決型・社会人基礎力を有した人材」を耳にします。科学者(人)を育成している学術団体としてKey Wordsは重要と感じます。私は前回の総会時の学生対象講演で述べた人材育成を実践し、継続的な環境整備を実施し素晴らしい学生を受け入れる環境を整備しました。次は日本放射線技術学会が放射線技術の将来を託す科学者を育成する基盤となるべく団体へ成長させたいと考えております。第45回秋季学術大会(広島)では、前回の抱負でも述べた「先人が目指した放射線利用への挑戦の志と足跡」を参加者と情報共有できる場を設定すべく準備を進めております。多くの会員に第45回秋季学術大会へ足を運んでいただき、日本放射線技術学会会員でよかったと思える学術団体に育てていきたいと思っております。
18	市川 勝弘	2015年度より本学会理事を努め、広報渉外委員として特にホームページの改善(学術団体にふさわしい体裁とコンテンツ構成)の活動をしてまいりました。その成果は近日中に形として現れます。また理事会でも積極的に発言し会運営の活性化に努めてまいりました。学会活動の大きな柱の一つは、学術論文誌刊行と、その中での優れた研究成果の発信であると初回立候補時にも申しましたが、その信念に変わりはなく、本学会はそれを軸とした活動を強化し、社会から真に高い評価を得ること目指すべきと考えます。本学会の論文数の低迷は大きな問題です。理事として再任されました暁には、20年の豊富な臨床経験と大学教育経験を生かしまして、論文投稿数増加と、会員の優れた研究のためのコンテンツ拡充に努めてまいります。また研究方法論やプレゼンテーション技術に対しても、臨床現場の環境を考慮した講座開設を目指す所存であります。
19	小笠原 克彦	日本放射線技術学会は、世界の中でも放射線技術科学を牽引する素晴らしい学術団体です。その学術団体の中で、この3期6年間、北海道支部担当理事(北海道支部長)、業務執行理事(企画委員長)を経験させて頂き、第42回秋季学術大会大会長、編集委員会副編集委員長、として活動いたしました。引き続き、研究・地域・教育の観点から、診療放射線技師免許を持つ大学教員として、先輩が確立された日本放射線技術科学を更に発展のために、頑張りたいと考えております。何卒よろしく願いいたします。
20	對間 博之	茨城県立医療大学 對間(つしま)博之です。現在、学術委員会とJSRT-JART将来構想会議の委員および、核医学部会(部会長)として学会活動しております。今後も各地方支部、専門部会と理事会が一体となりながら本学会が発展するよう、微力ながら貢献できればと考えております。また、諸先輩方の後を追従するだけでなく、次世代の学会の在り方について、同世代の仲間と共に考えながら活動していきたいと思っております。若輩ではありますが、足元の地道な活動と少し先のビジョンを持ちながら本会の発展に寄与したいと考えますので、よろしく願いいたします。